

## (プレ告知第2弾) 森本千賀子氏インタビュー (令和5年度東京支部総会 講演会登壇)

令和5年7月1日(土)に上野精養軒にて開催される彦根高商100周年を祝う東京支部総会の講演会登壇者である森本千賀子様の、インタビューの様子を紹介させていただきます。(聞き手:当番幹事の丸山貴宏氏)



丸山 森本さんは、滋賀のご出身なんですよ。

森本 滋賀県高島市マキノ町出身です。今回、滋賀出身というご縁で滋賀大学100周年という節目の年にこのような講演のお話をいただいて大変光栄です。私も大先輩である丸山さんには遠く及びませんが(笑)、30年間人材業界を見てきています。講演会の前半では、まず日本も終身雇用から時代が変わってきていて、トレンドワードになっている「キャリア自律」(自分のキャリアは自分で守らないといけない)が必要だということについて、また人生100年時代、自分のキャリアの価値を磨き続けて年代に関係なく社会から必要とされる人になっておく必要があるというお話ができればと考えています。また、後半には、ではそのためにどうすれば良いのかというキャリア戦略について、様々なデータをもとにファクトベースでお話させていただこうと思います。

よく私がお話しているのは、

希少性と市場性と●●性という3つのテーマです。

希少性というのは、逆張りや掛け算が keyword でもあります。私が大学で在籍していた英語学科の女子学生の多くが JAL や ANA への就職を目指していた中、私は「男女もバックグラウンドも関係なく、実績で勝負できる世界は?」と考え、その答えが営業だったんです。まだ少数派のマイノリティだった女性であっても営業できる会社で働きたいと思いました。また、大学3年生の時に、偶々「スカウト」という本を図書館で見つけて、アメリカでは既にビジネスパーソンが転職をしながら自身のバリューを上げていっていると書かれていて、「日本も絶対そういう時代が来る」と思って人材紹介の会社を色々調べたら、リクルート人材センターというリクルートの子会社があったんです。リクルートの親会社からも内定をもらっていたのですが、東大・京大・一橋大・阪大の優秀な同期が100人単位で集まっていたんですね。一方、子会社の方では4大卒の女性は自分ひと

りだったので、あえて子会社に入社しました。入社式の日、配属先が決まって上司から「リクルートという看板を背負って勝負するな。森本千賀子という名前で勝負しろ」と言われまして。当時終身雇用が当たり前の社会の中で何でそんなことを言われるのかなと思ったら、女性の営業は皆アラサー、アラフォーで辞めていたんですね。

それから、当時オリンピック選手の方がインタビューで答えていたのですが、「大学でその競技にご縁があって、そこからオリンピック選手になれた」と。それがライフルか何かのマイナーな競技だったんです。確かにメジャーな競技だったらライバルが大勢いて、大学から始めてオリンピックに出場なんてできないですよ。それを聞いて、「レッドオーシャンで戦うのではなく、ブルーオーシャンでキャリアをつくる」ということを強く意識しました。これは、アスリートに限った話ではなく、ビジネスの世界でも通じる話など。

### <森本千賀子氏 プロフィール>

1993年リクルート入社。転職エージェントとしてCx0クラスの採用支援を中心に活躍。

2012年NHK「プロフェッショナル~仕事の流儀~」に出演。

2017年3月株式会社morich設立。NPO理事や社外取締役・顧問など

「複業=パラレルキャリア」を意識した多様な働き方を自ら体験。

プレジデントオンラインなどの連載のほか『本気の転職』など著書も多数。

2022年2月日経新聞夕刊「人間発見」の連載にも取り上げられる。

2男の母の顔も持ち、希望と期待あふれる未来を、背中を通じて子供たちに伝えている。

**丸山** 以前インタビューした為末大さんも同じことをおっしゃっていて、「高校の時に 100m 走では勝てないと感じて、400m ハードルに切り替えた」と。やはりそういう戦略ですね。

**森本** はい、その通りです。また、入社後も、営業として担当する領域は、他の人があまり希望しないような流通業界をあえて選択しました。

そして、もう 1 つは、希少性だけではバリューにならないので、マーケットから必要とされる人になるという市場性が重要で、では、今の時代でどういうスキルが求められるかという、**変化対応力**に尽きます。この変化対応力を身に着けられるようなキャリアや環境が必要ということですね。私自身は、20代のときにリクルートの中でも異動が物凄く多くて、理不尽なくらいに半年単位で異動させられたんです。私は営業だったのですが、最初はマーケットとしてはあまり成熟していないような荒地からのスタートが多かったのです。でもその荒地を耕して種まきをして水やりをしたり一生懸命マーケットを育ててようやく果実が手にできる（楽できる）と思ったらすぐ次のところに移ってという形で。当時は大変でしたが、異動していくことによって都度チームメンバーが新しくなっていくので、

誰がキーマンで誰と仲良くなればビジネス上メリットがあるかという感覚も次第に分かるようになってくる。大体異動 3~4 回目くらいから変化があることが楽しくなってきたんですね。そういう変化対応力を養うためには、異動もしくは地方や海外に行くなど、**今まで使っていたのとまったく違う筋肉を使う環境に自ら飛び込んでいく**ことが大事だと思います。

**丸山** 30 代の人は 10 年以上の経験があるから守りに入りがちですが、むしろどんどん自ら環境を変えて挑戦するべきですね。

**森本** 新しい環境に移った瞬間は、すべてが初めての事なのでその瞬間は成長曲線が鈍化するものの、その後また進化していきます。これは「**非連続キャリア**」として理論的にも実証されています。実は、この 10 年間の転職マーケットのリサーチによると、**業界を超えて転職（越境転職）**した人が 67.3% いるんですよ。これは何故かということ、同じ業界の同じ仕事だったら

今の会社にいた方がメリットが大きいので、わざわざ転職のリスクを取らなくても良いよねと。まったく違う土俵で自分のキャリアを活かしたい、通用するのか挑戦したいという人が増えているんです。ビジネスで成功している人は、地方や海外や子会社に異動するといった大きな変化によって、そこでいかに花を咲かせるかという強烈な原体験を持っている方が多いですね。ダーウィンは、「変化できるものが生き残る」と言っていますが、これはビジネスの世界でも同様かと思います。

また、もう 1 つの●●性というのは...

いかがでしたか？ 続きが気になる方は、ぜひ当日の講演会にご期待ください！（丸山）



〇聞き手 <丸山貴宏氏 プロフィール>

1986 年滋賀大学経済学部卒業（大 34 回）後、リクルート入社。7 年間人事担当採用責任者として新卒、中途、留学生、外国人など多岐にわたる採用を担当。退職後、株式会社クライス・アンド・カンパニーを設立。著書「その一言で面接官に嫌われます」（青春出版）「転職面接での答え方」（高橋書店）「キャリアコンサルティング」（翔泳社）等。ダイヤモンドオンライン「転職して幸せになる人不幸になる人」好評連載中。

## 7月1日(土)東京支部総会WEB先行申込受付開始（以下のリンクより）

東京支部総会にご出席予定の方の「WEB先行申込」の受付を開始いたします。今年の支部総会につきましては、会場人数制限を設けない予定で準備を進めておりますので、会員の皆様相互にお声掛けいただき、多数のご出席をお待ちしております。

<https://forms.gle/fKNhTenpb2M9iU4r7>

《WEB受付のお問合せ先》 shibusokai2023@gmail.com 当番幹事：桂田 和也（大学34回）